

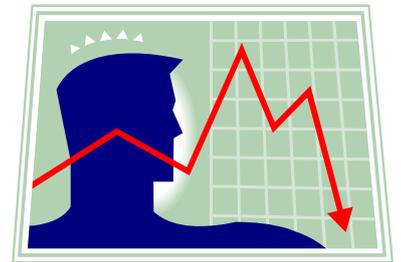
世界的株安で何に投資するかの見極めが一層難しくなる中、NISAで何に投資する？ NISA本家・英国ISAファンドでは成長株ではなく高配当株が人気。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

## 世界的株安で何に投資するかの見極めが一層難しくなる中、NISAで何に投資する？

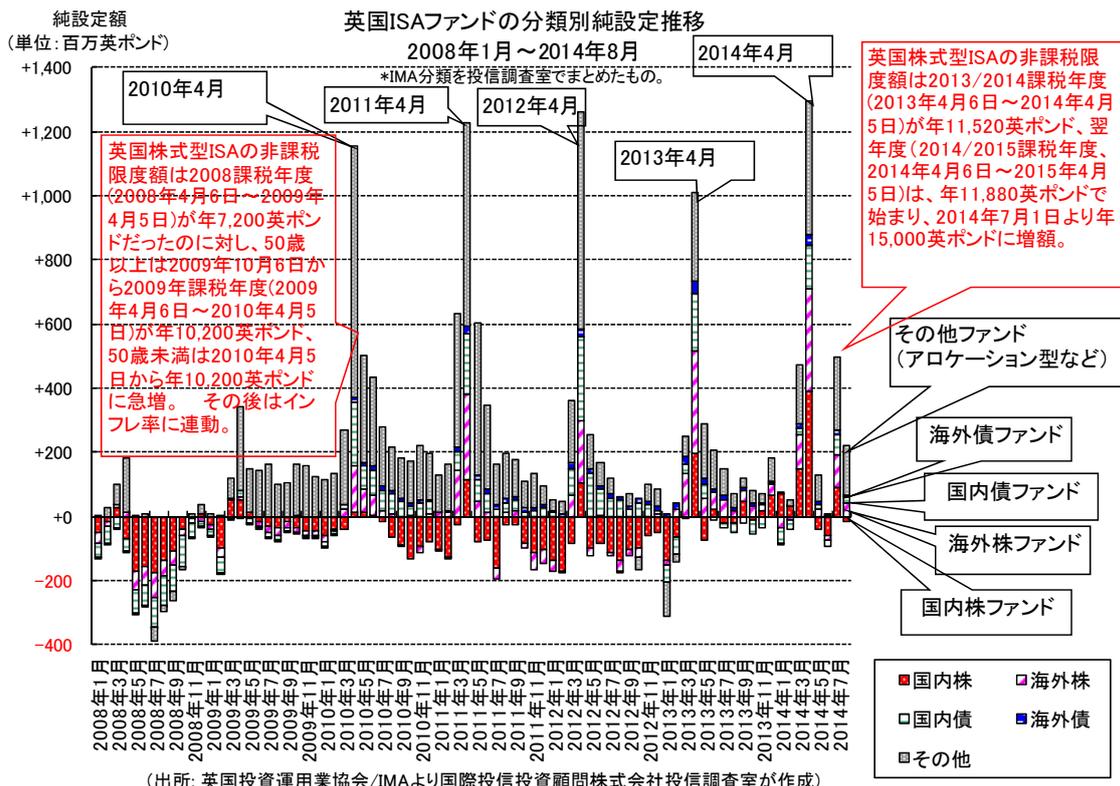
NISA(少額投資非課税制度)の元年も残り2カ月強となった。口座を開設していない人も、口座を開設した人も、何に投資するか、いつ投資するかの見極めをしようとしている人が依然多いと思われる。特に10月から進んだ世界的株安などの世界の金融市場動揺が一層、その見極めを難しくする。

ただ、まずは、こうした時こそ、「分割している間は値下がりがメリットになる」(9月22日付ニッキン投信情報)と言われる積立投資(時間分散)が検討されよう(前回10月14日付日本版ISA その75 参照～URLは後述[参考ホームページ])。残る「何に投資するか」について、前々回10月6日付日本版ISA その74では実際にどのような投資がされてきたかを見た(URLは後述[参考ホームページ])。今回はさらにNISA本家・英国のISAファンドで実際にどのような投資がされているかを見て、再び「何に投資するか」について参考としたい。



## NISA本家・英国ISAファンドの純設定は堅調に推移

2014年9月29日に英国投資運用業協会/IMAが発表した最新の月次統計によると、英国ISAファンドの純設定額は7月に+499百万英ポンド(約866億円)、8月に+205百万英ポンド(約354億円)と堅調に推移している。

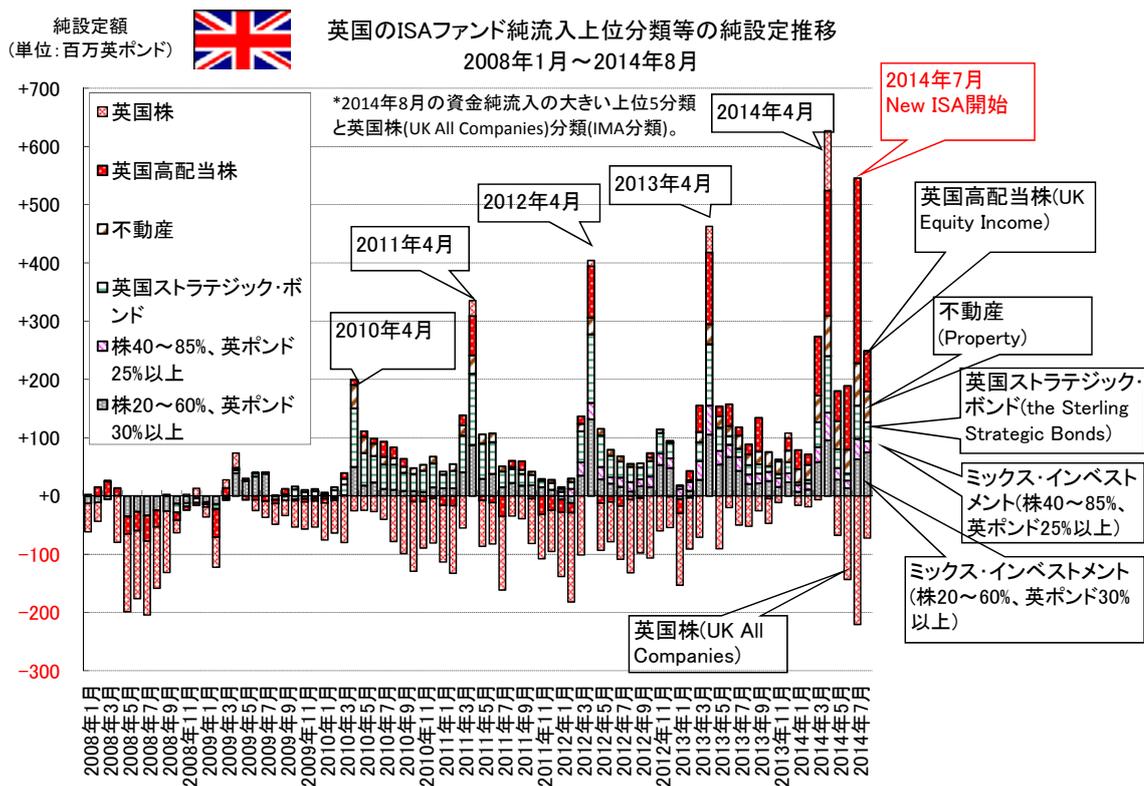


8月の純設定の大きい順に、「その他(アロケーション型など)」、「海外株」、「国内債」、「海外債」、「国内株」となっている(\*この分類はIMA分類を投信調査室でまとめたもの)。前月7月の+499百万英ポンド(約866億円)は季節性(下記※1参照)のある月を除けば2008年1月以来の大きさだ(\*非課税枠拡大については後述する)。

※1: 英国ISAの季節性…英国ISAのファンドでは、例年4月を中心に3月～5月が大きな純流入となる傾向がある。それは、英国の投資家が毎年4月5日の課税年度終了前に未使用分の(駆け込み)投資をして、4月6日から新年度になると非課税を最大限享受すべく一気に投資をする場合が多い事(金融機関もキャンペーンをする事)が背景にある。2014年4月もISAファンドへの純設定額は+1293百万英ポンド(約2322億円)と前月3月の+475百万英ポンド(約818億円)から大きく伸びている。特に課税年度最後のわずか5日間(2014年4月1日火曜日～5日土曜日)に+358百万英ポンド(約615億円)が純流入している(\*2013年同期は+347百万英ポンド)。2014年4月のISAファンドは+1293百万英ポンド(約2322億円)なので、2014年4月6日～30日に+935百万英ポンド(約1707億円)の純設定があった計算である(\*2013年同期は+686百万英ポンド)。尚、英国ISAでは、その年に決められた非課税投資枠のうち使わなかった分を翌年に繰り越すことができない(日本のNISAも同様)。日本では12月終わりにかけてそうした動きが起こりそうである(2014年7月28日付日本版ISAの道その65及び2014年9月8日付日本版ISAその70参照～URLは後述[参考ホームページ])。

## NISA本家・英国ISAファンドでは成長株ではなく高配当株が人気

前頁のグラフ「英国ISAファンドの分類別純設定推移」は大きな分類で見たものであり、「その他(アロケーション型など)」が一番となっていて、「どの様な投資がされているか」がよくわからない。そこで2014年8月の資金純流入の大きい上位5分類を詳細に見たのが下記グラフである(\*この分類はIMA分類そのもの)。参考として英国株(UK All Companies)分類(IMA分類)を加えてある。「英国株(UK All Companies)」は成長株に純資産の80%以上を投資するファンドである。ISAファンドで人気の「英国高配当株(UK Equity Income)」は高配当株に純資産の80%以上を投資するファンドである。



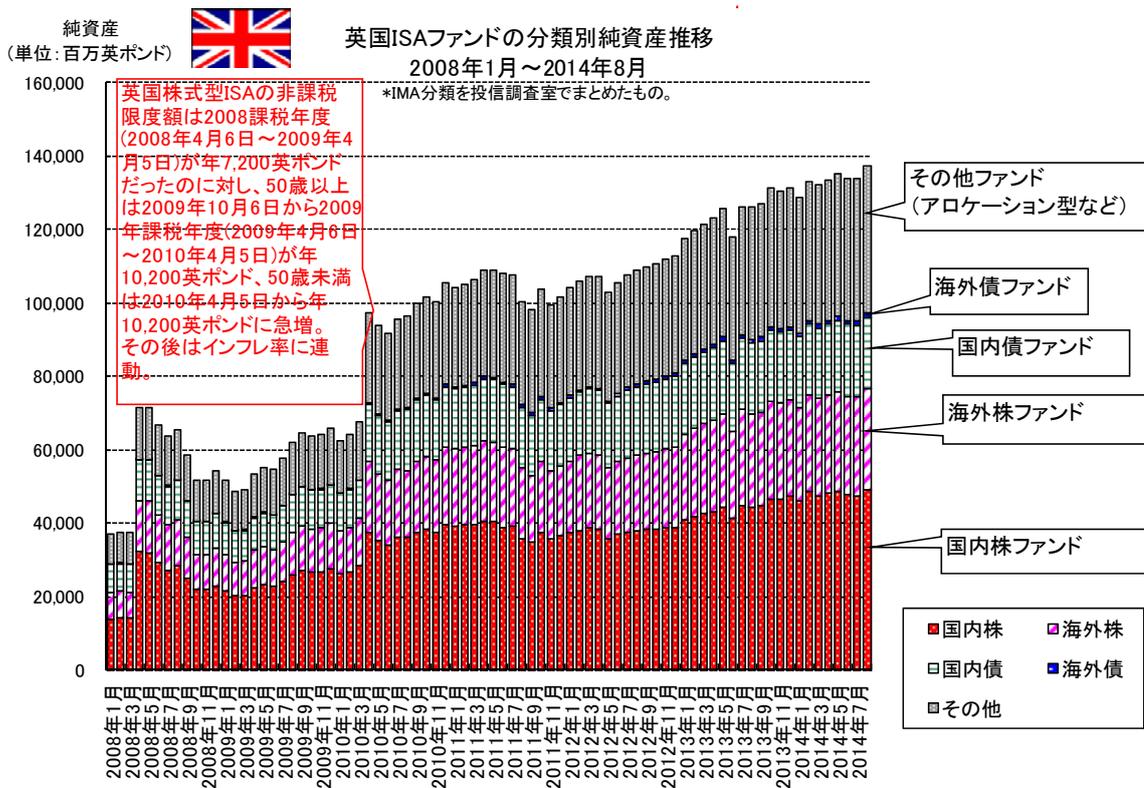
(出所: 英国投資運用業協会/IMAより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

2014年8月の純設定の大きい順に、1位「株 20～60%、英ポンド 30%以上(Mixed Investment 20-60% Shares)」、2位は「英国高配当株(UK Equity Income)」、3位は「不動産(Property)」、4位は「英国ストラテジック・ボンド (£ Strategic Bond)」、5位は「株 40～85%、英ポンド 25%以上(Mixed Investment 40-85% Shares)」となっている(\*この分類は IMA 分類そのもの)。2014年の年初来(1～8月)の合計での1位は「英国高配当株(UK Equity Income)」、2位は「不動産(Property)」、3位は「株 20～60%、英ポンド 30%以上(Mixed Investment 20-60% Shares)」であるので、総じて、「英国高配当株」と「株 20～60%、英ポンド 30%以上(Mixed Investment 20-60% Shares)」つまりアロケーション型と「不動産」が人気と言えそうだ。

注目は非課税枠が3割増額した2014年7月で、「英国高配当株(UK Equity Income)」が2008年1月以来で最大の純流入となる一方、「英国株(UK All Companies)」は2008年1月以来で最大の純流出となっている。同じ英国の国内株ファンドと言っても、「英国高配当株(UK Equity Income)」は強い人気で、「英国株(UK All Companies)」は不人気となっている。NISA 本家・英国 ISA ファンドでは成長株ではなく高配当株が人気と言えそうである。

### NISA 本家・英国 ISA ファンドでは季節性の影響が大きい

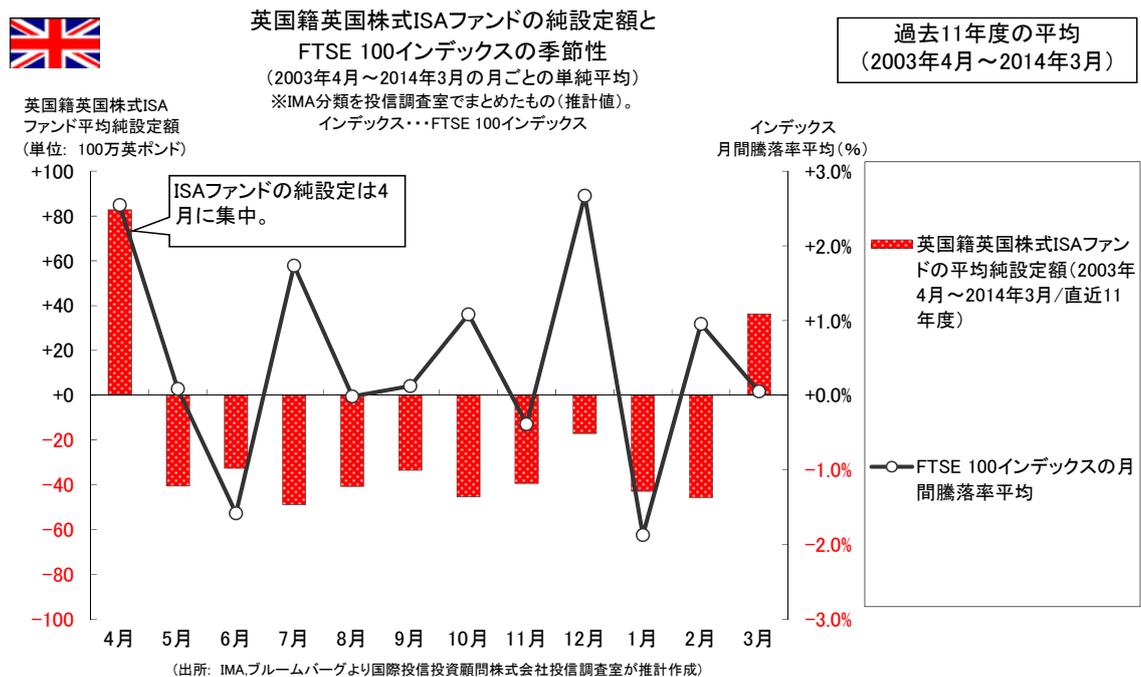
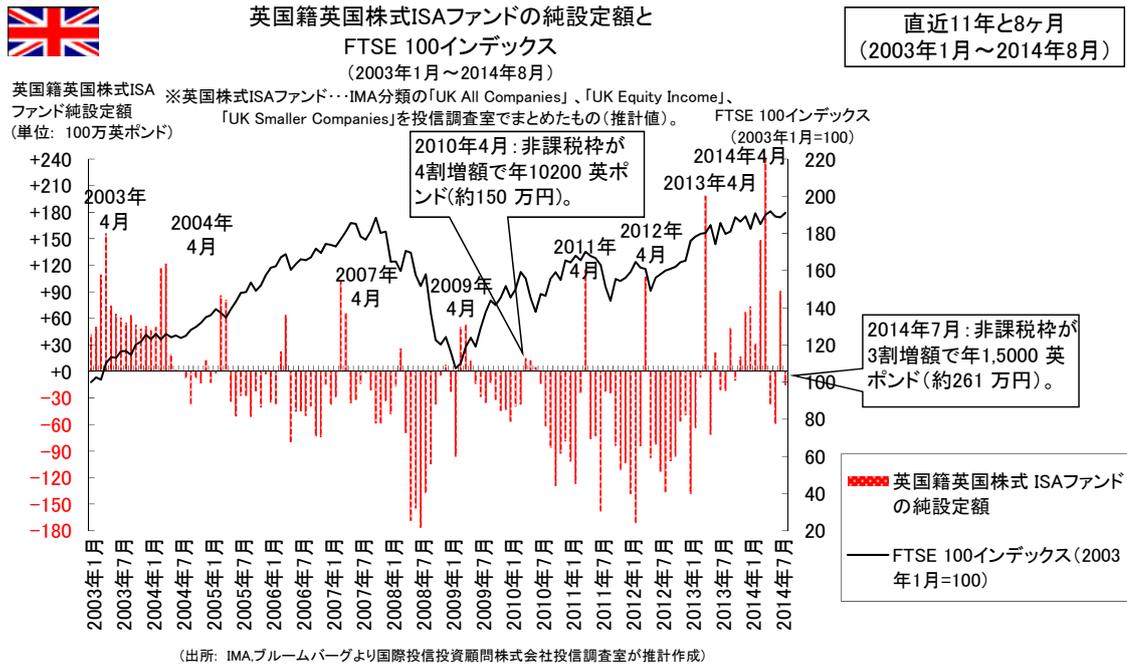
ここで、NISA 本家・英国 ISA ファンドの純資産も見ておく。2014年8月末の英国 ISA ファンドの純資産は1373億英ポンド(約24兆円)と過去最高である。だが、あまり伸びていない。2014年7月末の純資産は前月比+0.0%増、2014年8月末は+2.5%増なのである。



英国 ISA では2014年7月1日から新しいISA(New ISA/NISA)が導入されており、非課税枠は年15000英ポンド(約261万円)と前年度の年11520英ポンドから約3割(+30.2%増)引き上げられている。前回の非課税枠拡大は2010年4月6日からであり、その当時は年10200英ポンド(約150万円)と、前年度の年7,200英ポンドから約4割(+41.7%増)引き上げられた(50歳以上は2009年10月6日から)。その当時、2010年4月末の純資産は前月比+44.4%増だった。その当時と比べ2014年7月末の前月比+0.0%増、2014年8月末は+2.5%増は

かなり小さい。

英国の株式市場が影響を与えた可能性もある。だが、株価を代表するFTSE100 指数を見ると、2014年7月は-0.21%で2014年8月は+1.33%であった一方、前回非課税枠拡大時の2010年4月は-2.22%だった。2014年の7-8月は、2014年5月14日に付けた6868.49(\*1999年12月30日に付けた6930.20が過去最高値に次ぐ高値)をどうしても抜け切れなかった時期であった一方、前回非課税枠拡大時の2010年4月は2009年3月3日の33512.09(2003年3月13日以来安値)から反発上昇局面。共に株は堅調な時期である。



それでは何が起きたかだが、要因として、前回は資金純流入の急増する新しい課税年度に合わせたものだったが、今回は2014年7月1日からで、課税年度の途中で起きた事が背景にありそう。しかし、それは、今後2015年4月にかけて大きな純流入が期待出来ると言う事でもあり、悲観する事ではないと思われる。

以上だが、NISA 本家・英国 ISA のファンドで起きた事は日本でも起きる可能性がある。このあたり、しっかりと参考にしてほしい。

New ISA(NISA)  
2014年7月1日より

英国ISAの非課税限度額 2014年9月30日現在

課税年度	年度開始日	英国のISA(アダルト/レギュラーISA)		
		非課税限度額 総計 (単位:英ポンド)	前年度比 増加率 (%)	預金型ISA (単位:英ポンド)
1999-00	1999年4月6日～	7,000		3,000
2000-01	2000年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2001-02	2001年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2002-03	2002年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2003-04	2003年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2004-05	2004年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2005-06	2005年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2006-07	2006年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2007-08	2007年4月6日～	7,000	0.0%	3,000
2008-09	2008年4月6日～	7,200	+2.9%	3,600
2009-10	2009年4月6日～	7,200/10,200	0.0%/+41.7%	3,600/5,100
2010-11	2010年4月6日～	10,200	+41.7%/ 0.0%	5,100
2011-12	2011年4月6日～	10,680	+4.7%	5,340
2012-13	2012年4月6日～	11,280	+5.6%	5,640
2013-14	2013年4月6日～	11,520	+2.1%	5,760
2014-15	2014年4月6日～	11,880/15,000	+30.2%	5,940/15,000
非課税限度額の累計		136,080/139,080		71,040/72,540

\*1: 2008-09(2008年4月6日)に始まる年度から非課税限度額の引き上げが行われている。2010-11と2014-15の大幅引き上げを除き、インフレ率に連動した引き上げとなっている。

\*2: 2009年10月6日より、50歳以上だった人は、2009年4月6日に始まる年度の非課税限度額が10,200英ポンド(預金型ISAは5,100英ポンド)に引き上げられた。50歳未満の人は翌年度の2010年4月6日から10,200英ポンド(預金型ISAは5,100英ポンド)に引き上げられた。

\*3: 2014年4月6日に始まる年度の15,000英ポンドへの引き上げは、2014年7月1日より適用。6月30日までは11,880英ポンド(預金型ISAは5,940英ポンド)。

(出所: 英国歳入税関庁/HM Revenue & Customsより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

[参考ホームページ]

2014年10月6日付日本版ISAの道 その74「NISA 元年も残り3カ月、金融機関がNISA 駆け込み需要の取り込みを強化する中、NISA で何に投資する? 9月はREITファンドとグローバル債券・株式ファンドが人気!」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141006.pdf>」、2014年10月14日付日本版ISAの道 その75「NISA でいつ投資する? 最新9月末までの積立投資(時間分散)の結果を過去1・3・5年でみると! (PDF 413kb)」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141014.pdf>」、2014年9月8日付日本版ISA その70「来年に持ち越せないNISA で何に投資する? NISA 開始から8カ月で、人気のあるのはREITファンドやグローバルの株・債券ファンド。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140908.pdf>」、2014年7月28日付日本版ISAの道 その65「NISA 目標達成にはNISA 非課税限度額引き上げが有効!12月までの未使用分投資と1月における非課税限度額の最大限享受を期待～本家英国ISA が示唆すること～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140901.pdf>」、2014年3月31日付日本版ISAの道 その50「英国で新しいISA(NISA)が始まる! 日本のNISA のモデルとなる株式型ISAは、非課税枠3割増で残高3000億英ポンド(約50兆円)に近づく可能性も。」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140331.pdf>」。

以上  
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

・FTSE International Limited("FTSE")©FTSE 2014年。「FTSE®」はロンドン取引証券所グループ会社の登録商標であり、FTSE International Limitedは許可を得て使用しています。FTSE指数、FTSE格付け、またはその両方におけるすべての権利は、FTSE、そのライセンサー、またはその両方に付与されます。FTSEおよびライセンサーは、FTSE指数、FTSE格付け、もしくはその両方、または内在するデータにおける誤りや省略に対して責任を負わないものとします。FTSEの書面による同意がない限り、FTSEデータの再配布は禁止します。